

第 4 次丹波市男女共同参画計画策定 のための市民ワークショップ 報告書

令和 4 年 2 月

丹 波 市

I 目的

新しい「丹波市男女共同参画計画」を策定するにあたり、地域での生の意見を把握するため、市民ワークショップを開催し、市民の方々から幅広い意見をいただき、計画に反映することを目的に、市民ワークショップを開催しました。

II 実施場所

市民プラザ（丹波ゆめタウン2階）

III 実施手法

グループワーク形式での意見交換を行いました。

IV 実施日程

令和4年1月29日（土）

第1回（午前の部）≫ 10時～12時

第2回（午後の部）≫ 13時30分～15時30分

V 実施テーマ

テーマ①：女性が（男性も）、自分らしく個性と能力を発揮できるようになるには？

テーマ②：困難を抱えた女性を支援するには？

VI 意見のまとめ（概要）

テーマ①：女性が（男性も）、自分らしく個性と能力を発揮できるようになるには？（概要） （現状・課題）

【家庭】

- ・ お金がかかる 家計を預かっている責任
- ・ 家庭の中ではアンコンシャスバイアスが強い
- ・ 家での役割分担がよっている
- ・ 役割固定概念（親からのすりこみ） 女の子も男の子も
- ・ 家族の協力が必要
- ・ 女性はこうあるべき、男性はこうあるべきという考えがある

【職場】

- ・ そもそも仕組み/環境と心理的/退職に由来するものがある
- ・ 仕事の役割分担が偏っている
- ・ 成功へつながるチャレンジ体験の場を与えられていない（保守的）
- ・ 年功序列がある
- ・ 能力を発揮するためのメンター、応援者が少ない
- ・ 管理職が女性になるとダイバーシティにつながる

【地域】

- ・ ゴミ問題と人口減少
- ・ 女性の管理職は地域から低く見られることがある
- ・ 法律や社会のルールが平等ではない（時代錯誤）
- ・ 自治会で女性の役割が少ない
- ・ 家庭を支える地域の協力 送り迎え等
- ・ 地域のつながりがある。田舎のいいところ

【行政】

- ・ 教育の場（リカレント教育）
- ・ 法律や社会のルールが平等ではない（時代錯誤）
- ・ 行政の審議会で女性の参画にかたよりがある
- ・ 包括的な改革の実現

【意識啓発】

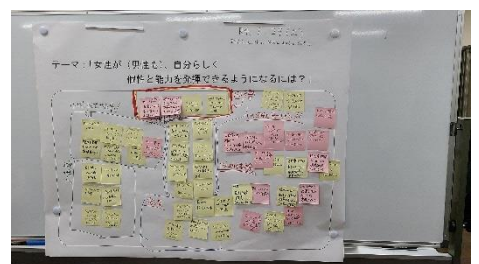
- ・ テレビの影響マイナスが多い
- ・ 自分が、周りが、不平等な扱いを受けていると気づかない
- ・ 昔は意見を言わないことが生きていく手段だった
- ・ 無意識の偏見、アンコンシャスバイアスが意識の中にある
- ・ 自己肯定感の育ちがすくなく、能力発揮に自信がないこと
- ・ おかしいと思うことをやる！！
- ・ 言葉と行動の一致

【多様性】

- ・ 多文化交流する場がない
- ・ 世代での違いはあるのでは？
- ・ ある一定の枠をこえることへの偏見や罪悪感があること

【その他】

- ・ 森林を守り有効利用



(方向性)

【家庭】

- ・ ホームパーティー
- ・ 家庭では、女の子だから…男の子だから…という価値観を捨てる
- ・ 家庭では両親の姿を見せてやる（父親の参画）
- ・ 家庭でアンコンシャスバイアスの話をする

【地域】

- ・ 地域の中でコミュニケーションの場を作る
- ・ 自治会組織に女性の構成割合を増やしていく
- ・ 若い世代が地域の親世代の中に入っていく
- ・ 年代別や性別などの意見交換会
- ・ 公民館を再利用してサークルなど増やし交流を深める



【職場】

- ・ 女性に仕事のやりがいを見つけさせ、自信と意欲につなげる

【行政】

- ・ 市役所において、女性にも若い時からいろいろな部署を経験させる

【意識啓発】

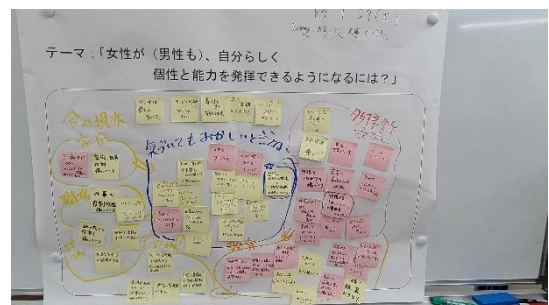
- ・ 普通という言葉がなくす
- ・ 若者の異性に対する認識
- ・ 子どもの意識（良い方向）の後押しをする
- ・ 自分と向き合う機会 ワークショップ 学習会
- ・ 美德（ありがとう）を学べる機会を見つける
- ・ 第一声を発してみる！（どこでもいいので）

【多様性】

- ・ 男女でLGBTについて語る会
- ・ 多様なつながりの場づくり
- ・ 男性は女装して過ごしてみる
- ・ セーフティーな社会を作るにも男女協力して支えていくこと
- ・ 誰一人取り残さないために多様な視点が必要
- ・ アサーティブな表現方法を身に付けて実践していく
- ・ ジェンダーについての学習会

【その他】

- ・ 日本と違う環境に行く
- ・ 外国人から見た日本人の男女の差
- ・ いいところを見つける



テーマ②：困難を抱えた女性を支援するには？（概要）

（現状・課題）

【困りごと】

- ・ フルタイムで働くひとり親の仕事量、退勤時間
- ・ 経済的な不安が大きい
- ・ コロナで本人、家族の状況で仕事ができない
- ・ 介護離職
- ・ Wケア、トリプルケア
- ・ 心理的な状態（はずかしい等）
- ・ 仕事が続かない（体調不良等）
- ・ 家族関係が良くない
- ・ 育児
- ・ 親子のふれ合いの機会が少ない
- ・ 一人親
- ・ 自己肯定感が低い
- ・ ほめられて育っていない
- ・ 老々介護



【相談】

- ・ 誰にどこに相談すればよいかわからない
- ・ 子育てのことを人にたのめない たのめる人がいない
- ・ がんばらなくてはいけないと思いこんでいる（何とかかなと思っている）
- ・ 頼れる人がいない
- ・ 助けを求めることができない
- ・ 何でも自由に書き込める、通信の様なものがあれば。（24 時間）
- ・ 親子の問題があり、自分の心の内を家族に話せていない！！会話が一番

【地域】

- ・ 民間で支援するNPOがない
- ・ 人間関係を築きにくい つながりががない
- ・ ぐちを言える関係の人がいない
- ・ 家がゴミ屋敷
- ・ 会話でマウントを取ってしまいトラブル
- ・ コロナで、話をする機会が減った
- ・ 時々電話やメールなどで「変わりないですか？」こちらからアクションを起こす
- ・ 電話やメールなどでSOSが届いた時はすぐに相手の気持ちを聴く。（友人）
- ・ 今は厳しいですが、お茶や食事に誘う。自然な会話の中で悩みを話せることも

【情報】

- ・ どうして生活したらよいかわからない
- ・ 支援できる補助があっても内容を知らない
- ・ 支援のための制度を知らない
- ・ 相談できる場所を知らない

【その他】

- ・ 制度のハードルが高い
- ・ DV 困っている本人が生活をかえないといけない
- ・ 晩婚化



（方向性）

【困りごと】

- ・ 地域福祉、多様なテーマで→専門につなぐ
- ・ とにかく家族の誰かとつながっておくこと
- ・ 学校、教育委員会の支援 困っている子の把握→相談に結び付けられる
- ・ 継続的な支援

【相談】

- ・ 困っている人たちのための民間団体と行政、専門家の協働
- ・ 誰もが来られる場所を作る（個室もあり）
- ・ SNSの広告で相談窓口を知らせる
- ・ 話がきける人、支援する人を育成する
- ・ 女性サポートコーディネーター講座の開催
- ・ 明確に女性専用で相談できる窓口で専門職をおく
- ・ 相談場所を（案内）増やす。（身近）（喫茶、病院）でチラシなど
- ・ 距離がある方が正直に話せることもあります。→窓口電話（24H）
- ・ 行政の相談機関のPR チラシ配布 ポスター 公衆の目につきやすい場所



【アウトリーチ】

- ・ アウトリーチが必要（福祉）役所・社協から当事者へ

【地域】

- ・ 親を育てるためのボランティアなど、おせっかいなおばちゃんを派遣する
- ・ 女性を支援する民間団体をつくる
- ・ 多様な学びの機会を用意する
- ・ つながりたいと思える地域づくり
- ・ 地域で子育てするという意識づくり
- ・ “声掛け” 近所から始める
- ・ 地域の身近な居場所づくり（美容室など）
- ・ 地域で支えるという考えを持つ
- ・ 近隣の人が気にかかる
- ・ 民生委員につなぐ
- ・ みんなが集まる居場所（誰でも）
- ・ お茶会の開催（自由に話せる場）（テーマごと）
- ・ 楽しいイベントからのつながりづくり

【情報】

- ・ 誰もが目にするであろう場所にチラシなどで情報を提供する。スーパー、コンビニなど 病院
- ・ 子どもを介しての情報発信、提供
- ・ 放送を家庭で流す。SNSで発信する！
- ・ 行政窓口への情報提供
- ・ 広報 紙媒体での発信
- ・ 地域のネットワーク情報共有
- ・ SOSポストまちの色んなところに

【その他】

- ・ 生きる力を育てる学習の場をつくる
- ・ 市民にむけたDVに関する研修会

